

鶏卵や鶏肉が健康食品に？ ～第3の食品機能性表示制度～

安倍総理の肝いりの経済活性化戦略の一環として「栄養機能食品」「特定保健用食品(トクホ)」に続く、第3の食品表示が来年度から開始される見込みだ。鶏卵と鶏肉の販売でも活用が期待される制度だ。

●これまでの制度とその課題

食品には美味しく栄養があるほかに、体調を整える保健機能がある。これを食品の機能性と呼び、その機能性を表示する制度として「栄養機能食品」と「特定保健用食品」の2つの制度がある。

栄養機能食品は、ビタミンやミネラルの補給ができる食品のことで、主にサプリメントや加工食品と考えればよいだろう。12種類のビタミンと5種類のミネラルが対象になっているが、これ以外の成分を含んでいても、栄養機能食品としては認められなかった。

特定保健用食品はトクホとも呼ばれ、血圧やおなかの調子を整えるなど、体の様々な機能を指定してそれを改善するという表示ができる。ただし、トクホは時間とお金のかかる臨床試験を行い、データを国に提出する必要があるため、実際は研究所を持つ大企業しか活用できない制度であった。

●新しい制度は何が違うのか？

来年度からは、栄養機能食品と特定保健用食品に続き、第3の食品表示制度が始まる予定だ。その目的は広く民間のノウハウを活用し、食品市場を活性化することである。制度検討会は消費者庁の主催で昨年末から行われており、今年7月18日に行われた第8回の検討会で新しい制度の姿が見えてきた。

この制度では、食品を販売する側が科学的根拠やデータを正しく収集し、効果を得るための摂取量の目安などを表示すれば、自らの責任でその食品の機能性を表示できるようになる。自らの研究でなくとも国内外の大学や研究所の調査結果を引用できるので、制度活用のすそ野が大きく広がることになる。

●鶏卵や鶏肉での活用は可能か

今回の制度は生鮮食品も対象にしている。表示の例としては、温州みかんはβ-クリプトキサンチンを含み、骨の健康を保つので更年期以降の女性に適している、といったものが挙げられている。つまり、普通の温州みかんでも機能性表示で

Topics

きるわけである。

ならば、鶏卵や鶏肉ではどうだろうか。鶏卵には脳の活動を活発にするレシチンや、目の網膜の機能を保つルテインが豊富に含まれている。特徴卵ではこのほかに様々な成分が強化されている。鶏肉にも疲労回復効果のあるペプチドが豊富に含まれている。

信用のある雑誌に掲載された論文やデータを自ら揃えて理解し、その鶏卵や鶏肉をどれくらい食べれば効果があるのかを明示する。そして、消費者の問い合わせにもきちんと答えられる体制を備えられれば、販売する鶏卵や鶏肉に健康機能を表示できる可能性は十分にある。

●制度が完成するまでの課題

参入が容易になる分、効き目の根拠が乏しいものが多くなれば信用できない制度になりかねない。そのため消費者庁への事前登録が必要になる。病人や未成年、妊産婦、授乳中の方を対象にした表示も認められない可能性が高い。

とはいえ、この制度は鶏卵や鶏肉が持つ機能性を多くの人に知ってもらい、消費の促進を図るチャンスになり得る。いずれ制度の名前も決まるだろう。今後も引き続き情報発信していきたい。

図.日本の食品機能性表示の種類

制度の名称	制度のポイント
栄養機能食品	ミネラル5種類、ビタミン12種類を指定して、これらを食事から十分とることができない場合の補助になる食品
特定保健用食品(トクホ)	体の機能などに影響を与える成分を含んでいて、保健効果が科学的に証明された食品。病気を治す医薬品ではない
第3の食品機能表示(検討中、名称未定)	以上の2つよりも広い範囲の加工食品や農林水産物で、健康に良い効果を企業などが自ら証明して表示する制度

Topics

●陰圧換気は気密性が命

陰圧ウインドウレス豚舎は、気密性が最も重要であることはご存知だろうか。施設が古くなるに従い、知らず知らずのうちに排気側付近にすきま風の侵入口ができるケースがよくある。

まずは、陰圧ウインドウレス豚舎内部の換気扇をチェックする。写真1は停止している換気扇の写真だが、シャッターの一部が欠落して戸外が見えてしまっている。



本来シャッターは、換気扇が止まっている時に冷気が流入しないために付属している。しかし、一部でも欠落することで機能しなくなり、換気扇の周辺だけが換気される「ショートサーキット」現象が生じてしまう。「すきま風」の有無に敏感になるなど、気密性にかかわるパーツの点検は特に注意して行いたい。

●入気をコントロールする

陰圧ウインドウレス豚舎は、壁に設置した換気扇での排気により室内の気圧を低下させ、室内外の気圧差によって外気を取り入れるシステムだ。多くの場合、換気量の調節はコントローラーによって多段階に行われるが、入気口であるインレットは気圧差によって物理的に開閉する場合がほとんどである。

この場合、風向板の可動部分

ウインドウレス豚舎の換気のポイント ～陰圧換気では気密性が重要～

機械換気を行うウインドウレス豚舎では、カーテン式のような開放型豚舎と異なり、人為的な入排気のコントロールが可能だ。しかし安定した環境コントロールを行うには、設備を過信せず管理者がポイントとなる箇所を定期的にチェックすることが重要になる。そこで、普段見落としがちな換気設備のチェックポイントについて解説する。

がスムーズか、ホコリなどが付着していないかを定期的にチェック・メンテナンスをする必要がある(写真2)。

また、インレットの調整を手動で行うタイプでは、開口部が狭すぎると入気の抵抗が大きくなり風量不足に、広すぎると吹き出し風速が弱くなり入気のムラが大きくなるため、こまめな調節が求められる。



●スノコ下からの流入防止

そのほか、すきま風の流入口は目が届かない床下にも存在しうる(写真3)。ピット構造によってはインレットの開口面積より大きい場合もあるため注意が必要で、特に複数の室間でピットを共有している場合は、ピット内をゴムカーテンで室毎に仕切る。普段は目に触れない箇所であるため、過去に設置したゴムカーテンは経年劣化による破れなどが生じていないかを定期的に確認したい(図)。

